

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホーム さとほろ 3階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号301		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和元年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170100648-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者さんに関わる時間や内容を重点におき、日々レク活動や体操等に取り組んでいる。
○入居者さんが安心して楽しく暮らせるように、スタッフの充実を図っている。
○自立支援を考え、個々の出来る事、出来る力を把握して作業の提供をしている。
○ご家族様も来所しやすい雰囲気作りを心掛け、居室に行かれるのではなく食卓で過ごされる方が多い。
○個々のスキルテーマに合わせた外部研修へ積極的に参加し、社内へ向けて報告し、皆で向上出来るよう情報を共有している。
○地域の行事には積極的に参加し、町内会からもお誘いをいただく等、交流が出来ている。
○ご家族様の理解協力が多く、ご家族参加の三大自然行事や日常的な外出支援等で、共に楽しみ、共に支えていく関係が出来ている。
○個々の身体状況を把握し、医師・看護師・ご家族と連携をとりながら、早期発見・早期対応に努め健康管理に留意している。
○ホームの狭さを利点と捉え、入居者様とスタッフの距離感が近い。
○厳選された食材を用いて四季の行事食を大切に作る等、食事内容の充実を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は中央区に立地している6階建てマンションの3階、4階にある2ユニットである。地下鉄駅に近く、大型店やコンビニがあり利便性が良く、神宮の社も徒歩圏内で自然環境にも恵まれている。利用者の多くは、実年齢以上の体力を維持し、外部への知的興味も失わず、健やかな日々を送っている。生活の中に運動を取り入れ、自動車を利用しての外出行事が数多くあり、利用者の生活活性化に繋がっている。職員の人員体制は夜勤は2ユニットに3人、日中も3.5人体制で急な対応にも備えられる人員を確保し、一人ひとりに寄り添った質の高い介護サービスを行っている。家族会が運営推進会議後開催され、各種行事に参加するなど活発に活動している。医療については提携医の訪問診療があり、看護師と職員で健康管理を行い、24時間体制での医療連携が可能である。確かな医療連携のもと看取りを実施している。看取りケアは職員達の長年の経験と実績があり、本人、家族の意向に沿い実施している。地域の町内会や保育園行事にも積極的に参加し、地域に溶け込み、家庭的な雰囲気の中で健やかに楽しく、安心して共に暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、スタッフ全員で意見を出し合い作成した。『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日を過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます』という理念がある。玄関、台所、スタッフルーム等に理念を掲示、毎朝の引継ぎ時に理念を唱和し、理念を共有、実践出来るよう努めている。	理念は事業所独自に職員全員で意見を出し合い熟慮して作成している。玄関やスタッフルームに掲示し、職員の名刺裏やパンフレットにも記載している。毎日の引き継ぎ時に唱和し、会議でも意識して話し合い、全員で共有して実践するように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事(総会、ゴミ拾い、花壇整備等)には積極的に参加し、事業所の存在を知ってもらえるよう努めている。 ・地域のイベント(子供会主催の夏祭り、保育園の運動会、お餅つき等)にも声を掛けて頂き、入居者の皆さんと参加し交流に努めている。	買い物や散歩のおり地域の方に挨拶するように努め、町内会に加入し、花壇整備やゴミ拾いに参加している。子供会主催の夏祭りや保育園の運動会には声を掛けられ、利用者は玉入れなどに参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別地域ケア会議に、隣接するセブンイレブンの店長さんにも出席して頂き、事業所の存在や認知症の人の理解や支援の方法を伝え協力を得た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会を開催し、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着している。報告書を全ご家族へ、管理者以外のスタッフも交代で会議に参加し、他のスタッフへは報告書と全体会議で内容を周知しサービス向上につなげられるよう努めている。	会議には地域包括支援センター、民生委員、家族、法人代表、職員が参加し、定例に開催している。運営状況、行事、ヒヤリハットなどを報告し、討議内容は運営に反映させている。会議に続き家族会を行うので家族の参加は多い。議事録は家族全員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者連絡会に出席、事故報告、他不明な点や疑問点等についても報告、相談をしながら、適正なサービスの提供、ケアの質の向上につなげられるよう努めている。	行政担当課とは報告業務や相談などで連絡を取り、協力関係を築いている。管理者連絡会の出席や研修会の参加で行政の意向の把握に努め、ケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」を中心に、振り返りとグレーゾーンの確認、学びの機会を設けている。外部研修へも参加し禁止の対象となる具体的な行為を意識し、スタッフ一人ひとりが自覚と責任を持ち互いに注意喚起しながら発生の防止に努めている。マンションの玄関はオートロックであるが、各フロアは施錠をせずに自由に行き来出来るようにしている。	「身体拘束委員会」を3カ月に1度行い、議事録をとり、全員に回覧し確認している。マニュアルを整備し、指針も作成している。勉強会を年2回行い事例研修し、外部研修にも参加し互いに意識しながら身体拘束のないケアを行っている。マンション玄関はオートロックであるが、各フロアの入口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けている。入居者の身体の様子は都度確認し、申し送りでも確認している。日々のケアや関わりを振り返り、スタッフ同士注意喚起し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けているが、十分とは言えない。更に制度の理解を深められるよう学び、必要時には活用出来るようにしたい。現在、成年後見人制度を利用している方が一名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書や重要事項等で説明し、利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、十分な話し合いを心掛けている。また、改定時には運営推進会議や家族会、書面で通知し意見交換を行い理解、納得につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望をくみ取れるよう意識し取り組み、ご家族には話しやすい雰囲気作りと都度尋ねることに努め、家族会での意見交換や年に1度アンケート調査を実施している。要望があった時には話し合い、記録に残し速やかな改善に努めスタッフにも周知している。また、言いにくい時には外部機関があることも知らせている。	家族来訪の折りは親しく話を聴いている。「さとほろだより」を発行し生活状況を報せている。運営推進会議や家族会では意見交換し意見や要望を聞くことができる。家族アンケート調査を年1度行い、家族の意向を把握し、利用者や家族の意見が運営に反映されるように取り組んでいる。公的な外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは個々で面談する機会を設けている。また、普段から意見を言いやすい関係性作りを心掛け、全体会議、フロア会議、日々の勤務に於いてスタッフの意見や提案、思いを聞き取るよう努めているが、双方に温度差もあり、それらを十分に反映することが出来きないこともある。	代表者には職員は勤務の中で意見や要望を伝えることができる。管理者とは個々に面談する機会を設けており、全体会議、フロア会議、日々の勤務に於いて意見を聞き、職員の意見は運営に反映させるよう行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の仕事に向き合う姿勢や力量に差があり多くの課題はあるが、代表者は、スタッフ個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、実績評価を給与に反映している。増員と勤務体制を見直し休憩時間も確保出来るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、現場に於いての実技指導、内部研修では資料の作成と発表の場を通し習得につながるよう努め、外部研修には個々の力量や必要なスキルテーマを考慮した参加を促している。他希望による外部研修参加、資格取得も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホーム管理者連絡会やスタッフ勉強会、外部研修に参加し交流の機会、ネットワーク作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	書面情報からもバックグラウンドを知ること努め、ご本人には積極的に声を掛け、不自由しそうな点や不安面を理解し、それらを解消できる環境を整備し、周囲との仲介も行いながら、安心につながる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、入居後の不安等も含めご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、解決方法を一緒に考え、安心して頂けるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科往診や口腔ケアなど、個別に必要なサービス利用を伝え、それらのサービスを受けられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ目線ではなく、入居者本位で暮らせるよう、一人ひとりの尊厳を大切にし、相手の立場になり考え、作業や各レクリエーションを一緒にしないながら、共に暮らす者としての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、本人と家族の関係を大切にしている。面会しやすい環境を作り、三人行事や外出行事への呼び掛け、日々の報告連絡相談をこまめに取りながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日のようにご家族の面会があり、親戚の方や知人の面会もある。ご家族と共に自宅へ帰られたり、買い物や外食等、本人や家族の希望に沿って支援している。	家族、友人、親戚の方の面会が毎日のようにある。お盆や正月に帰郷したり、買い物や外食等本人や家族の希望に沿うように支援している。手紙や電話などの仲介も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度や性格、利用者同士の折り合いや関係性を把握し、トラブルを回避しストレスを受けないよう仲介している。入居者同士が作業やレク活動等を通じて関わり、支え合える関係作りの支援に努めているが難しい場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から良好な関係作りに努め、契約が終了した後も来訪して下さり、手打ちそばやお菓子の差し入れ、ビニール袋やウエス等の必要物品を頂く等、つながりを大切にしながら関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でよく話をすることを心掛け、談話の中や表情などから思いや希望を引き出せるように努め、本人本位の関わりやケアに取り組むよう努めている。困難な場合は、フロア会議で検討するようにしている。	利用者との話や表情から希望や意向を汲み取り、入居時に記録した生活歴や病歴も参考にしている。家族からも情報を得て、職員間で共有し、本人の希望に沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	公的機関やご家族からの情報や聞き取り、ご本人とコミュニケーションを取りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、有する力の維持継続と新たな力を発見出来るよう関わりに努め、それらの情報を申し送りで共有、活用し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人(可能な方)、ご家族の意向を確認し、アセスメントを全員で確認しモニタリングを行い話し合い、意見を反映し作成している。	介護計画は3～6カ月毎に作成しているが、状況が変化した時は随時モニタリングして作成している。本人、家族の意向を聞き、医師の意見も参考にして職員全員で検討している。介護計画は家族に送付して確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	表面的に見える心身の状態を分かりやすく記入するように心掛けている。また、特変等は見落としのないよう個人申し送りや介護日誌で情報の共有に努めているが、見落としなどもあり十分とは言えない面もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置を充実させる取り組みと合わせ、ホームの介護タクシーを利用する等して、個々のニーズに合わせた対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているイベント等には積極的に参加し楽しむ機会を作っている。、ボランティア、職場実習&職場体験の受け入れ、消火訓練では同マンションの方と共同で行い、避難訓練では民生委員・消防署の方にも協力を得ている。また、ご家族との外出や外食等、社会とのつながりを大切にしていけるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(受診)医療連携ホームDr(往診)を基本に、かかりつけ医の継続、受診時のご家族の同行、往診時の同席、その他都度の報告連絡相談にて必要な医療を安心して受けられるよう支援している。	提携医である訪問診療クリニック医師の月2回の往診がある。利用者が希望する医療機関への通院等は家族と共に協力している。24時間医療機関と連絡がとれる体制にあり、常に適切な医療が受けられるように支援している。歯科医の訪問診療もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎火曜日の訪問看護師とは、担当スタッフを中心に個々の状態を情報共有し、日常的な健康管理、様々な症状についての処置や指導を受け対応している。その情報は全スタッフが把握できるようになっている。急な体調不良時にも速やかに対応できる体制を整え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメントやケアプラン等情報の提出、病院関係者との面談で情報交換を行っている。また出来るだけで面会に行き、安心して治療を受けられるよう支援している。退院の時期に関しては、担当医・本人・ご家族の話し合いにて、早めの退院が出来るよう受け入れ態勢を整え対応している。また、主治医がホームDrの方も、必要時には入院が出来るよう協力病院と提携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年10月～11月頃とケアプラン見直し時、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来ることについてご家族に説明し意向を確認、書面にて同意を得ている。また、状態に合わせご家族と医師、看護師と話し合いの場を持ち方針を確認、全スタッフがそれを共有し取り組んでいる。	早い段階で本人、家族に終末期の意向を文書で確認している。状況が変化した場合は事業所として出来る範囲を報告、医師、家族、職員と情報、方針を共有し、家族の希望に沿い看取りを実施している。看取り件数は今迄30件以上あり、全職員が研修し協力し、医療連携のもと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を整え、救急搬送時に必要な情報を一つにまとめている。内部研修、外部研修にて学ぶ機会と訓練を受けてはいるが、いざという時に正しく対応できるか不安は少なくない。更に実践力を身につけられるよう学びの場を設けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方、ご家族の協力を得て、年二回夜間・日中の出火を想定した避難訓練・救助方法の実践を入居者と(可能な方)と一緒にし、その反省を共有している。地震・水害時の対応・避難方法についても確認し合っている。また、マンション内での通報訓練、水消火器使用の実践や外部研修にも参加し実践訓練を行っている。	消防署指導の下、年2回昼夜を想定し避難訓練を実施している。訓練には家族、町内会の人々が参加しマンション全体での避難訓練も実施している。室内の防火対策については、チェック表を作り、毎日点検している。災害対策の外部研修に参加し、避難経路の確認、食料や水の備蓄、停電による防寒対策など備えている。	防火対策については十分配慮している。地震など予期せぬ自然災害に対しても考慮し、落下物がないよう物の置き方などに注意している。積雪時期の避難経路の確認をし、非常階段やベランダの除雪などを行っているが、今後とも継続して実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であることを忘れずに、日々の言葉づかいには気をつけているが、配慮に欠けてしまうこともあると思う。	利用者の人格を尊重し、職員は言葉遣いや動作に配慮している。接遇研修も受けている。個人情報記載の書類や写真の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をくみ取り、それを表出出来るよう雰囲気作りや個々に応じた話し掛けの工夫で働きかけている。自己表現が難しい方に対しては思いをくみ取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他者との兼ね合いもあるが、一人ひとりの体調や気分には配慮しながら、本人のペースを大切に対応している。一日の流れはあるが、可能な限り臨機応変に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月に訪問理美容を利用している。自己決定の出来る方には尋ねることに努めている。ホーム内外、寒暖やTPOに合わせた身だしなみに気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	二十四節気や毎月の行事、旬の食材、日々の希望を献立に反映させ、個々の力量に合わせての下ごしらえ、味見、下膳、食器拭き、テーブル拭き等を一緒に行っている。スタッフも一緒に食し、雰囲気や会話も大切にしながら、楽しい食事の時間の共有を心掛けている。	メニューは利用者の好み、行事や季節に合わせ作成している。旬の食材を利用し、利用者も下ごしらえなど手伝っている。おやつ、漬物など手作りし、職員と同席して穏かな雰囲気の中で食事をしている。食事内容は家族や利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や咀嚼・嚥下力を把握し、状態に合わせた食事形態と栄養のバランスを考えて支援している。食器類の工夫で、安全に飲食が出来るよう支援し毎日の飲食量を記録している。目でも楽しめる内容と楽しく食せる雰囲気作りにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には十分な水分摂取の支援に努めている。毎食後個々の力に合わせて声掛けや見守り、介助を行っている。個々に必要な口腔グッズを活用し、適時義歯洗浄も行っている。また、希望者には毎木曜日に訪問歯科衛生士にて口腔内チェック、口腔内清掃、嚥下体操等を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛けている。失敗しない排泄方法の工夫で、個々や夜間など状況に合わせ支援している。	排泄記録や動作などから排泄パターンを把握し、適時にトイレに誘導している。夜間、ポータブルトイレや衛生用品を使用することもあるが、布パンツ利用を目指し、排泄の自立ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、十分な水分摂取と便通を良くする食材、食品の工夫、体操や散歩等で身体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。高齢や重度化に伴い自然排便の難しい方には、医師の指導のもと服薬や座薬の調整でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後に体調や気分に合わせて、皆が平均的に入浴出来るようにしているが、気分がのらない等はタイミングや日にちをずらして対応している。汚染時等も臨機応変に対応出来るよう支援している。不調等で入浴が困難な時は、清拭や足浴、手浴、ドライシャンプー等で清潔を保てるよう支援している。また、楽しい入浴が出来るよう会話や香りにも配慮している。	基本的には週2回以上入浴できるように行っているが、一人ひとりの希望や体調、タイミングに合わせている。1日2名の入浴でゆっくりできるよう配慮している。体調に合わせて、シャワー浴、清拭、足浴など行い、清潔を保っている。楽しい入浴となるように話しかけたり入浴剤を使用するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢、生活リズムを考慮しながら、温湿度や寝具、衣類、周囲の音や臭い等にも気を配りながら、安心して休息、眠れるよう支援している。また、夜間眠れない時には飲み物の工夫や湯たんぽの使用、会話等で安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明、処方箋、申し送り等にて目的、用法、副作用等の理解に努め、薬が変わった時には特に注意を払い、必要時には医師、看護師に報告、相談し適切な処方の支援に努めている。また、服薬確認は複数のスタッフで行い、服薬介助時には目と耳と声で再確認し事故のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を発揮出来るよう、作業、レク活動、会話、趣味や特技を生かせる時間と場の提供に努めている。また、個の楽しみ、集団での楽しみを工夫しながら、役割や楽しみごとが、自信や励み、喜びにつながることを願い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、また個々の体調や体力に応じて、可能な限り散歩や買い物、ドライブ等で外気に触れ季節を感じ、気分転換が出来るよう支援している。ほぼ毎月の外出行事と合わせ、さとほろ三大行事（新年会・お花見・敬老会）では、ホテル等でご家族と共に会食を楽しんでいる。また、自宅へ帰られる、ご家族と買い物、外食等の外出も行われている。	日常的には買い物や近くの公園に散歩に出かけている。近郊へのドライブは数多く実施しており、神宮参拝、動物園見学、よさこい祭り見物、紅葉観賞などがある。新年会、お花見、敬老会の事業所三大行事ではホテルで家族と会食を楽しむことができる。家族の協力を得て外出することもあり、利用者の希望に沿えるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、ホーム立て替え後日請求にて対応している。買い物時、可能な方にはホームの財布から支払っていただく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話をかけることを希望される方はいませんが、ご家族からの電話はつないでいます。毎正月個々の写真入り年賀状を作成し、ご家族や知人へ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く、車椅子使用の方もおり限りはあるが、家庭的な雰囲気大切にしながら、清潔を心掛け入居者と一緒に制作した物や、季節ごと行事ごとの装飾の工夫と、生花等で四季を感じ居心地の良い空間となるよう心掛けている。また、その時々に合わせてCDやラジオ等で音楽を流し、都度の換気や消臭剤の使用で室温、湿度、臭いにも気をつけている。	居間の窓からは、神宮の杜や山を望むことができ景観に優れている。共有空間は職員の心遣いもあり、家庭的で温かい雰囲気である。居間の壁には季節を感じる利用者の作品を飾り、玄関には香りの良い生花が飾られ、職員の笑顔の写真も飾られている。室温、湿度は適切に管理され、騒音や臭気はなく居心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が絶対的に狭く、車椅子を使用している方もいるため制限を受けているが、玄関にベンチを置いて外を見ながら一人になれる空間を作る等、可能な範囲で工夫に努め、食卓での席もその時々状況に応じて交換する等に対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、今まで使用していた家具や装飾品、家族の写真等、ご家族の方にコーディネートしていただく等で居心地よく過ごせるよう工夫している。入居年数の経過に伴い物品が増え、収納にも限りがあり手狭になることもある。身体状況の悪化に伴い、模様替えをすることもある。	居室には使い慣れた家具を置き、仏壇や家族写真、趣味の作品を飾っている。ソファを置いて、家族と共にゆっくり寛げるように配慮している。身体状況に合わせて、家族と相談して模様替えを行うこともある。清掃が行き届き、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで、改築型のホームのため段差もあり限りはあるが、個々の歩行状態や認知能力等を考慮し、手摺の設置、踏台、滑り止め、ポップで場所を知らせる、家具の配置や高さ等の調節で誰もが安心して暮らせる安全な環境作りに努めている。		